

令和6年度 国語科 「古典購読」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 文系 3年A～D組 選択者
教科書	古典探究 古文編（筑摩書房）	副教材等	「つながる・まとまる古文単語」（いっずな書店）、「新精選古典文法」、「新精選古典文法演習ノート」（東京書籍）「新訂総合国語便覧」、「新訂日本文学史必携」（第一学習社）

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈できる。	異なる作品を読み比べて人物像を考える	・『紫式部日記』 「和泉式部と清少納言」 ・『無名草子』 「紫式部」	・筆者のものの見方、感じ方を読み取り、自らの感性を磨き、当時の貴族の生活や教養についての認識を深める。	行動の観察 ワークシート分析
	5	内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができる。	歴史的な事実と比較しながら、物語を解釈する	・『大鏡』 「花山院の出家」	・登場人物の思惑を読み取りながらエピソードの面白さを味わう。	行動の観察
	6	日記文学の特徴について理解を深めることができる。	作品に表現された心情を読み取る	・『蜻蛉日記』 「嘆きつつ」 「道綱鷹を放つ」	・作者と登場する人物との関係に留意して、作品に表現された作者の心情を読み取る。	行動の観察 記述の確認
				第1回考査		
		我が国の文化の特質について理解を深めることができる。	現代に生きる古典芸能の姿と普遍性を理解する	・『難波土産』 「虚実皮膜の間」	・虚と実の関係を読み取り、虚構だからこそ共感・共有されて真実となる文学の普遍的なあり方を考える。	行動の観察
	7	先人のものの見方、考え方に親しみ、自分のものの見方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができる。	主体的に作品を読み、感じ方や考え方を深める	・『雨月物語』 「浅茅が宿」	・本文中に多く用いられている修辞技法や古典を典拠とする表現を整理し、その効果を考える。	行動の観察 記述の確認
	8					
	9	俳文の特色を踏まえ、構成や展開などを的確に捉えることができる。	構成の把握をとおして、表現への理解を深める	・『鶉衣』 「奈良団扇」	・古典を典拠とする表現や、擬人法、枕詞、掛詞などの表現技法がどのような効果を上げているか考える。	行動の観察 ワークシート分析
	9			第2回考査		

学期	月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	構成や展開などを的確に捉えることができる。	多様な人間関係と物語の展開を読み取る	・『落窪物語』 「落窪の君」	・登場人物の置かれた状況に留意する。 ・作品冒頭の構成や語り方を理解する。	行動の観察 ワークシート分析
		他の作品などとの関係を踏まえながら読み、内容の解釈を深め、作品の価値について考察できる。	長編物語の展開と人物の状況や思いを理解する	・『源氏物語』 「霧の中のかいま見」	・語句の正確な理解によって、場面や状況を的確に捉える。 ・登場人物の心理や行動の描き方を深く味わう。	行動の観察 記述の確認
	11	軍記物語特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	歴史的な事実と比較しながら、物語を解釈する	・『太平記』 「千早城の戦い」	・一年次に学んだ『平家物語』とは異なる合戦の描き方を理解する。	行動の観察 記述の確認
	12			第3回考查		
	1	我が国の文化の特質について理解を深めることができる。	構成の把握をとおして、表現への理解を深める	・『去来抄』 「岩鼻や」	・「古人」や「狂者」という語は、どのような意味で、具体的にどのような人をさすか考える。	行動の観察
		構成や展開などを的確に捉えることができる。	文章の構成や展開に注意し、作者の考えを理解する	・『無名抄』 「おもて歌」	・エピソードの内容を的確に読み取るとともに、俊成と俊恵の評価方法の違いについても考える。	行動の観察

3 評価の観点

知識・技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けている。 ア 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。イ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。ウ 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。エ 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。 (2)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けている。 ア 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。イ 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。ウ 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。エ 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。
思考・判断・表現	【読むこと】読むことに関する次の事項を身に付けている。 ア 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。イ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。ウ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。エ 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。オ 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。カ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。キ 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。ク 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。
主体的に学習に取り組む態度	(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

4 評価の方法

評価規準に従い、定期考查の結果、提出物の内容、授業中の姿勢などを鑑み、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

選択科目のこの講座では、さまざまなジャンルの文章をより深く作品の読解をしていきます。学習の習慣として本文の音読を勧めます。また、事前にわからない語句や文法事項があれば確認しておきましょう。長く存在感を放ち続ける名作「古典」を読んで人間の普遍的なものを感じ取り、深い教養の一端を身に付けて下さい。